

【学力向上フロンティアスクール用中間報告書様式】(小学校用)

都道府県名 鳥 取 県

学校の概要 (平成15年4月現在)

学校名	日吉津村立日吉津小学校								
学 年	1年	2年	3年	4年	5年	6年	特殊学級	計	教員数
学級数	2	1	1	1	1	1	2	9	14
児童数	35	26	30	31	30	23	4	180	

研究の概要

1. 研究主題

学ぶ楽しさを味わう児童の姿を求めて
 —— 児童の自己学習力を育てる指導法の工夫 ——

2. 研究内容と方法

(1) 実施学年・教科

2～6年生算数(子どもの理解度に差の出やすい教科であるため)
 2～5年生国語(子どもの理解度に差の出やすい教科であるため)
 1学年は、児童数35名で、2クラスの少人数学級である

(2) 年次ごとの計画

テーマ

自ら学び、自ら考え、進んで表現する子の育成
 —— 基礎的な学力の確実な定着をめざして ——

研究の見通し

仮説 1

個に応じた学習形態や指導方法の工夫・改善を図りながら授業の中で指導と評価の一体化に努めることにより、児童は分かる喜びや学ぶ楽しさを実感できるだろう。

仮説 2

特設の時間(のびのびタイム)を設定し指導することにより、国語科・算数科の基礎となる力の定着を図ることができるだろう。

研究内容・方法

仮説1の取り組み

- ・ 児童一人一人の理解や習熟度の把握
- ・ 個に応じた少人数指導の実施
- ・ 学び方を確立し、より主体的な学習態度を育成する学習過程の工夫
- ・ 児童の学習状況を把握し指導に生かすための具体的な評価規準の設定

平成
14
年
度

平成
15
年度

仮説2の取り組み
・ のびのびタイム教材（のびのびテキスト）の作成及び活用
・ 個々の学習状況に応じた基礎学力の定着

テーマ
学ぶ楽しさを味わう児童の姿を求めて
—— 児童の自己学習力を育てる指導法の工夫 ——
研究の見通し
仮説 1
児童の学力の評価を生かした授業の改善を図り効果的な指導に努めることにより、児童は主体的・意欲的に学ぶ態度や力が育つだろう。
仮説 2
特設の時間（のびのび・チャレンジタイム）で教科学習と連動させながら学力補足的な指導や発展的な指導を継続して行うことにより、国語科・算数科の基礎となる力を高めることができるだろう。
生活時程に特設時間として学力補充と発展的な内容を分けて取り組むことにした。
研究内容・方法
仮説1の取り組み
・ 意識調査や学力調査等の評価を基に、個への指導の手立てを明確にしたきめ細かな指導
・ 問題解決的な学習、自己評価を取り入れた学習過程の工夫
・ 評価規準を活用し、児童一人一人の学習状況の累積や個への指導に生かす
仮説2の取り組み
・ のびのびテキストの見直しと活用の工夫
・ のびのびタイム・チャレンジタイムの全校での継続的指導
・ 児童の意欲づけの工夫

平成
16
年度

テーマ
学ぶ楽しさを味わう児童の姿を求めて
—— 児童の自己学習力を高める指導法の工夫 ——
研究の見通し
仮説 1
児童の学力の実態を把握し、個に応じた教材の活用や個の学びを生かした指導形態の工夫をすることにより、児童は自己学習力を高めることができるだろう。

仮説 2

学校における教育活動との連携を図りながら特設の時間(のびのびタイム等)の指導を行うことにより、基礎的基本的な学力を高めることができるだろう。

研究内容・方法

仮説1の取り組み

- ・ 理解や習熟の程度に応じた学習材の工夫
- ・ 児童一人一人の思いや意欲を大切にした授業展開による自己学習力の育成
- ・ 自己評価・相互評価の場の設定と評価力の育成

仮説2の取り組み

- ・ のびのびテキストの見直しと活用の工夫
- ・ のびのびタイム・チャレンジタイムの全校での継続的指導
- ・ 児童の自主的な取り組みの工夫
- ・ 教育活動の見直しと学びを生かせる場の工夫

(3) 研究推進体制

研究組織 (4つの授業研究部会・3つの専門部会を設置しテーマの具現化を図ってきた。)資料1

平成15年度の成果及び今後の課題

1. 研究の成果

事前のレディネステストや学習ノート・学力検査など児童の実態を多面的にとらえ、個々の学力の評価を生かした授業づくりに取り組み、指導力が高まった。授業研究会を通して指導案の改善に努め、評価規準を具現化していくための取り組みが深まった。

学習に役立つノート指導に取り組み、児童が学習の中でノートを活用する姿が増えた。振り返りの場面で単なる感想から自分や他人の考え・学びの変容について記述するようになるなど、学ぶことの楽しさを実感する子供が増えてきた。学習の中で変化していく児童の良さを認めることばかけを通して指導と評価の一体化に努めることにより、児童の学習意欲も高まり授業中の発表や学習態度も積極的になってきた。

チャレンジ・のびのびタイムの中で国語科・算数科における補充的な指導をしてきたことにより、四則計算力・書字力の定着を図ることができた。

諸検査の結果にも一学級を二人の教員でティームティーチングや習熟度別・興味・関心別の少人数グループによるきめの細かい指導をしてきた成果が表れているといえる。(資料2)

2. 今後の課題

授業との連携を十分図りながら児童がより主体的に取り組み問題解決力が高まっていくような楽しく確かな学習材の開発に努め、本校独自のプランを完成させたい。

授業研究会を通して単元指導の中で発展・補足的な扱いの指導方法の工夫・改善について研究実践を深め、指導力の向上を図りたい。

めざす子どもの姿をより具現化していく上で、最終年度は理解や習熟の程度に応じた効果的な学習材の工夫や自己評価・相互評価の場の設定と評価力の育成に努めたい。

県の基礎学力調査結果から、「生活や体験を結びつけ、相手に分かるように理由を整理して話すこと」や「話の中身を的確に聞き取ったり、自分の意見を明確に述べたりすること」の指導を意図的に継続していくなど「伝え合う力」の育成に努めたい。

学力等把握のための学校としての取り組み

定期的な学力検査を実施（NRT（全国標準学力）検査 5月・12月、県基礎学力調査 1月、県学力診断テスト 2月）
 児童対象に国語・算数科の学習に対する意識調査を実施（7月・12月・随時）

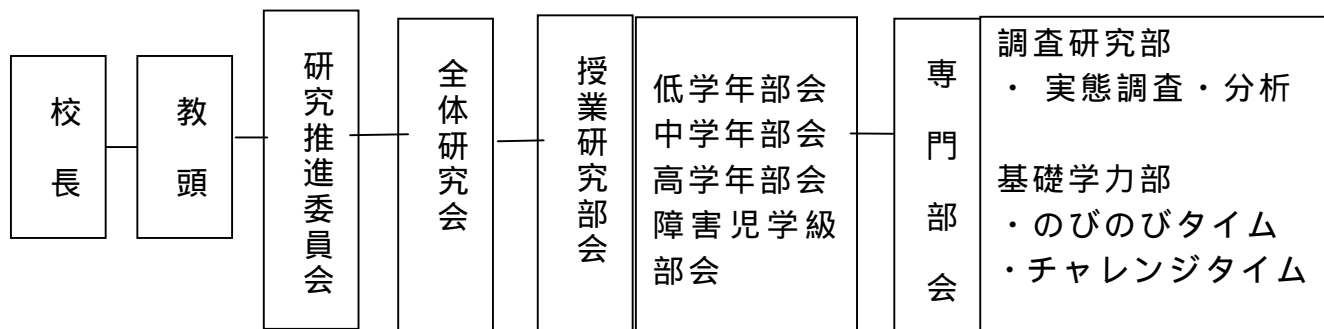
フロンティアスクールとしての研究成果の普及

- ・ 学力向上推進協議会研修会で発表（12月26日に米子文化ホールに於いて西部地区の教職員を対象に研究指定2年次の取り組みについて実践発表）
- ・ 評価研修会で実践の紹介（1月6日に西部教育事務所に於いて西伯郡の教頭・教務主任を対象に研究の取り組みについて実践発表）
- ・ 県教育研究発表会で発表予定（2月10日に倉吉体育文化会館に於いて県内の小中学校教員及び保護者等を対象に研究指定2年次の取り組みについて実践発表）
- ・ 本年度の取り組みをまとめた研究冊子の作成（3月）
- ・ 郡内の小学校への研究冊子の配布
- ・ 地域・保護者への情報発信（説明会3回、学習公開15回、便りの配布20回）
- ・ 研修会（授業研究会 10回、講演会 1回）

次の項目ごとに、該当する箇所をチェックすること。（複数チェック可）

- | | | | | |
|-----------------------|------------|--------------|------|----|
| 【新規校・継続校】 | 15年度からの新規校 | √ 14年度からの継続校 | | |
| 【学校規模】 | 6学級以下 | √ 7～12学級 | | |
| | 13～18学級 | 19～24学級 | | |
| | 25学級以上 | | | |
| 【指導体制】 | √ 少人数指導 | √ T.Tによる指導 | | |
| | 一部教科担任制 | その他 | | |
| 【研究教科】 | √ 国語 | √ 算数 | 理科 | |
| | 生活 | 音楽 | 図画工作 | 家庭 |
| | 体育 | その他 | | |
| | | | | |
| 【指導方法の工夫・改善に関わる加配の有無】 | √ 有 | 無 | | |

資料1 研究組織



資料2 成果(検査結果から)

- ・ N R T (全国標準学力検査) 算数「数と計算領域」では、昨年度定着率の悪かった学年についてあげると、3年生が、昨年度(前学年)の全国比 92 に対して 101、5年生が、昨年度の全国比 91 に対して 110 まで伸びてきた。
- ・ N R T (全国標準学力検査) 算数「図形領域」では、昨年度定着率の悪かった学年についてあげると、4年生が、昨年度(前学年)の全国比(全国通過率を 100 とする)107 に対して 111、5年生が、昨年度の全国比 87 に対して 103 まで伸びてきた。
- ・ N R T (全国標準学力検査) 国語「書くこと」では、3年生が、昨年度(前学年)の全国比 112 に対して 130、6年生が、昨年度(前学年)の全国比 103 に対して 114 まで伸びてきた。
- ・ 昨年度に実施した県基礎学力調査ペーパーテストの結果から、算数科では全体的に見ると、二学年(3・6学年)とも 3～4% 県の正答率よりも高い数値が出ている。また、国語科では、3学年で全体的に県の平均正答率と比べて 10% 近く高い数値を示しており、おおむね良好な状況であると言える。二学年ともに実施教科において「知識・理解・技能」の観点では高い数値を示している。
- ・ 昨年度末に実施した県基礎学力調査質問紙調査の結果から、二学年ともに、すべての項目について本校児童の大部分が肯定的な回答をしている。特に学校生活に関する項目の「学校が好き」「勉強が好き」「勉強は大切」では、県平均値を 10～20% も上回った結果が出ている。